

講義名	対2) マネジメントサイエンス			授業形態	
担当教員	持田 信治	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

本講義は企業活動における意思決定を科学的分析と根拠に基づいて実行することを理解する。更に本講義の主題は本学のデイトラマポリシーに沿って、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることである。企業や組織の運営では様々な問題に直面する。そして問題解決のための効果的かつ具体的な解決方法が求められる。そして問題解決では問題を数値的又は可視化して分析して問題の本質を特定することが求められる。そこで、本講義では問題を分析して解決するための基本的なツールの説明を行い、問題を数値的又は可視化して問題のポイントを特定する力を養い、更に組織の品質と問題を共有するための問題分析、把握能力の習得を目指す。また、本講義では具体的な問題解決事例による演習を通じて科学的な意思決定方法の活用方法も学ぶ。

到達目標

- 本講義は以下を本講義の到達目標とする。
1. 経営の意思決定に於ける科学的根拠の必要を理解する。
 2. 経営に於ける意思決定の根拠を科学的に求める手法を理解する。

提出課題

(対面講義の場合)
講義の終わりに当該講義に関する小テストを行うことがある。また、講師内容に関する課題の提出を要求することがある。
小テスト及び課題の提示は R E S P O N により行う。
(オンデマド講義に移行した場合)
小テスト及び課題の提示は R E S P O N により行う。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

(対面講義の場合)
課題の解説や質問に対しては、必要に応じて次の講義で解説と説明を行う。
小テスト及び課題の提示は R E S P O N により行う。
(オンデマド講義に移行した場合)
課題の解説や質問に対しては、講義ビデオ内で説明を行う。
小テスト及び課題の提示は R E S P O N により行う。
オンデマドの場合には必要に応じてメールで質問を受ける。

評価の基準

(対面講義の場合)
(1) 評価は講義への参加度合いと課題の提出状況により算出する。
(2) 授業参加度 5 0 点、小テスト又は課題 5 0 点で評価する。
(3) 課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。
(4) 授業参加度の確認と小テスト及び課題の提示と回収は R E S P O N により行う。
(オンデマド講義に移行した場合)
(1) 評価は授業参加度と小テストや課題の提出状況により算出する。
(2) 授業参加度 5 0 点、小テスト又は課題 5 0 点で評価する。
(3) 課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。
(4) 授業参加度の確認と小テスト及び課題の提示と回収は R E S P O N により行う。

履修にあたっての注意・助言他

本講義はパソコンを使用するので、オンデマド講義に移行した場合には自宅にパソコンがあること。
(1) 授業の運用方法、評価基準、受講ルール等の重要事項を初回の授業で説明するので、履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。
(2) 対面講義においてはノート、筆記用具を準備しておくこと。
(3) 対面講義においては講義中の私語、飲食、カバンや飲食物を机の上に並べること及び途中入室、途中退室、携帯電話の使用は厳禁とする。ルール違反者は厳重に対応する。場合によっては退室を命じることがある。
(4) 対面講義においては質問を行う等の積極的な参加を期待する。オンデマドに移行した場合にはメールにて質問を受け付ける。
(5) ポータルに資料がUPされている時は事前に確認しておくこと。
(6) 講義への積極的な参加を希望する。また講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考文献

その他

必要に応じて、教材をポータルにUPする。

授業計画

- 第 1 回 企業経営における問題
- 第 2 回 統計の基本 (基本統計)
- 第 3 回 統計の基本 (正規分布と偏差値)
- 第 4 回 系列データ分析 (増減率、移動平均)
- 第 5 回 同時系列データ分析 (自己相関)
- 第 6 回 データ分析 (回帰分析)
- 第 7 回 データ分析 (重回帰分析)
- 第 8 回 データ分析 (数量化1類分析)
- 第 9 回 中間まとめと演習
- 第 1 0 回 資源の有効活用 (線形計画法その 1)
- 第 1 1 回 資源の有効活用 (線形計画法その 2)
- 第 1 2 回 科学的な計画立案 (PERT 1)
- 第 1 3 回 科学的な計画立案 (PERT 2)
- 第 1 4 回 様々なデータの分析
- 第 1 5 回 まとめと演習

授業形態 (アクティブ・ラーニング)

ア: PBL (課題解決型学習)	イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他 (A-L 型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスに従った予習と配布された講義内容に基づいた復習を期待する。講義の参加に当たって、予習 2 時間と復習に 2 時間の自己学習が必要である。当該講義及び前回の講義内容について、小テストを行うこともあるので、授業後に復習を行うこと。講義に関連した小テストや課題は講義では説明をしていない関連項目に及ぶこともあるので講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

マネジメント力や問題解決力は現代の企業経営に不可欠であり、マネジメント力や問題解決力は現代の企業経営の証拠主義に不可欠である。従って、本講義を履修することにより本学のデイトラマポリシーに於ける、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、具体的な改善策や解決能力を身に付けることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

「家務経験あり」
過去のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、マネジメントと顧客の関係理解に向けたポイントを解説する。

備考

問題意識を持って講義に参加すること。